

熱く 羽ばたけ 大潟っ子

白鳥



校長通信
大潟村立大潟中学校
令和2年12月18日(金) 発行
NO.8 文責:安田 和人



「子どもへの体罰 ～話し合いを重ね回避を～」

学校における「体罰に係る実態把握のための調査」へのご協力ありがとうございました。体罰の禁止は、学校教育法第11条に規定されています。また、親などによる体罰の禁止を盛り込んだ改正児童虐待防止法と改正児童福祉法が今年の4月に施行されました。「しつけ」と称した暴力を受けた末、命を落とす子どもが後を絶たない中、法律に体罰禁止が明記されることになりました。体罰には身体的暴力だけではなく、心を傷つける暴言や食事を与えないことなども含まれます。12月11日(金)付けの秋田魁新報に、上記のタイトルの記事が掲載されていたので、抜粋して紹介します。

(前略)

力で押さえつけるのではなく、その考えや気持ちを尊重し、一人の人間として声を聴くことで、子どもは成長します。兄弟や友達を傷つけたときはまず、その理由を聴きましょう。そして、それについてどう思っているかや、相手の気持ちについて話し合い、今後同じ過ちを繰り返さないためにどうするか、子どもと一緒に考えます。

また、ゲームばかりして勉強しない子には、どうしたら目標を立てて努力できるか親子で計画します。ゲーム障害など健康面への影響や、学ばないことで将来の選択肢が減ることについて、話し合ってみましょう。身体的な暴力を振るわなければよい、というわけではありません。攻撃的な言葉や態度を受け続けると、脳は傷ついたり萎縮したりし、将来、うつや依存症になりやすいという研究結果もあります。

(後略)

「体罰を回避するための具体的なポイント」

1. 「言うこと聞かない」理由を考える・・・○保護者の気を引くため ○子どもなりに考えている ○言われたことを理解できていない ○体調が悪い ○「イヤ」という意思表示も成長の証し
2. ときには一緒に、お手本を示す・・・言葉だけでなく、実際に子どもと一緒にやってみる
3. 良いこと、できていることを具体的にほめる・・・当たり前のことでも言葉で表す
4. よく忘れ物をするなら、一緒に忘れないための方法を考える・・・置き場所、持ち物リスト作成
5. 保護者もストレスを解消する・・・一時、その場を離れたり、時間をおいたりする

大潟村連携教育「公開保育・授業研究会」

12月16日(水)に、3名の学識経験者をお招きする中、各園・小・中学校の学校運営協議会委員の方々等が参加し、公開研究会が開催されました。中学校では、2・3時間目の全授業を公開し、参観していただいた方からは、「全体的に発言しやすい雰囲気があり、楽しく勉強していた」「ICT機器を活用したり、生徒同士でアドバイスをし合ったりしてよい」などの意見が聞かれました。

また、午後から行われた『熟議』では、「潟っ子のインターネット事情」というテーマで、現状と課題をグループ毎に出し合い、その解決策を話し合いました。どのグループからもインターネットやSNSを使用する際の、しっかりとしたルール作りの大切さが報告されました。来年度から始まるGIGAスクール構想においても、大変有効な話し合いになったと思います。



「アンサンブルコンテスト」県大会中央地区予選 12/20(日)

吹奏楽部が由利本荘市で行われるアンサンブルコンテストに出場します。出場順は1番目で、9:00からの演奏となるので、当日の朝6時に学校集合だそうです。今週水曜日(12/16)には、カジュアルタイムで吹奏楽ミニコンサートが開催されました。コンテストの演奏曲の後、アンコールが起り、計2曲素晴らしい演奏を聴かせてくれました。体調管理にも十分に気を遣い、練習した成果を存分に発揮できるよう頑張ってください。



『コンテストへ向けての抱負』 部長 2年 森〇〇穂
私たち吹奏楽部は、12月20日にカダレで行われるアンサンブルコンテストに出場します。今年はコンクールが無かったので、初めての大会になります。私たちは今まで、大きな舞台で演奏できる喜びと緊張感をもって練習を重ねてきました。本番では、観客の方も、自分たちも楽しめるような演奏を目指して、全力で頑張ります。

生徒会執行部 がんばっています。

いま生徒会では、球技大会やクリスマスイベント、そしていじめのない環境作りのための活動など、様々なことに取り組んでいます。10月に新生徒会が活動を始めるに当たり、新しい取組の一つとして「いじめのない学校作り」を掲げました。今年新型コロナウイルス感染症が発生してから、全国的に「コロナいじめ」「誹謗中傷」という言葉が目立つようになりました。また、昨年度の全国の小・中・高等学校のいじめ認知件数が、過去最多となったというニュースも報道される中、自分だけでなく大切な人がいじめられる人、またはいじめられる人にならないために、誰もが笑顔で学校生活を送るために「笑顔満開政策」が始まりました。それを受け、生徒からは、いじめられてからどうしたらよいかを考えるのではなく、「いじめを生まない雰囲気づくり」をすることの大切さなどが提案されました。今後、全校生徒一人一人が心一つにして、いじめの問題を自分のこととして考え、毎日一回でもいいので「笑顔」で過ごすことができるよりよい大中を作ってくれることを期待しています。

『笑顔の効果』

人は、一日の中でも場面によって喜ぶ、怒る、悲しむなどいろいろな表情をしています。皆さんは、友だちのどんな表情が好きですか。私が、皆さんを見ていて最も印象深く、幸せな気分になれるのは「笑顔」です。最近の研究で、笑顔でいるということは、心身に計り知れないほどの良い効果があるとも言われています。

笑うことによって、①脳内に幸せ気分を感じさせる「エンドルフィン」や、②モチベーションを維持するために欠かせない「ドーパミン」、③心を平安な状態にして心地よさや穏やかさを生み出してくれる「セロトニン」といったホルモンが分泌され、ストレスが解消したり、プラス思考になったりするそうです。最近の調査では、笑顔が免疫力を高め、病気の症状の改善に効果があることも科学的に証明され、また身体がリラックスすることで集中力が高まり、良い結果が出やすくなるとも言われています。

皆さんにとって、最近、おなかが痛くなるほど笑った記憶や、学校で自分が笑顔になったのは、いつだったか思い出せるでしょうか。今は、特に3年生は高校入試を控え、自分の進路を決めるために、焦りやイライラが募りやすい時期です。心の状態がそのまま表情に出てしまい、暗い表情になってしまうことがあるかもしれません。登校時に、玄関で皆さんがいつもと違った表情で挨拶しているのを見かけると、前日に学校や家庭で何かあったのかなと思うこともあります。

不安な時や焦っている時にこそ、無理をしてでもまずは笑ってみることも必要です。人は口角(唇の両端)を引き上げるだけでも笑顔になり、その効果があるそうです。つらいとき、苦しいときにこそ、頑張っ、意識的に少しでも笑顔をつくってみましょう。学校では無理だと思う人は、家で試してみてもいいでしょうか。心身を適度にリラックスさせ、物事を達成する上で必要なパワーを生み出す笑顔で、皆さん一人一人が自分の目標を達成してくれることを強く願っています。

